

**ドイツ ニーダーザクセン州 ヴィルデスハウゼン中高等学校 向川 さん**

留学期間 H29.3.11～H30.1.14

**1 留学の成果**

非英語圏であるドイツという国で 10 カ月間生活したことは、将来の夢をさらに明確化するきっかけを作ってくれました。

留学当初から 10 カ月間という限りのある時間をいかに有意義に、そして実りあるものにするかということ意識していました。しかし、何も問題なく 10 カ月間を送ることができたわけではありません。まず、この言語は大学入学以前に学ぶ機会が殆どなく、数カ月は全く初めての語圏の中で生活する大変さに日々頭を悩ませていました。言葉に少し慣れ始めた頃からは、友達やホストファミリーとの向き合い方、接し方に悩み苦しんだ時期もありました。ですが、このように悩んだからこそ納得のいく結果を自分自身で見つけ出せることも多々あり、この留学を通して自己解決能力を得られたのではないかと思います。

私が通っていた現地のギムナジウムと呼ばれる中高等学校では、中東・イスラムからの移民難民を受け入れていたこともあり、母国の状況や彼らの心情までも聞くことができました。明日普通に生きることさえも保障されていない、安全に生きることすらままならない人々が大勢いることをどれだけの日本人が知っているのでしょうか。このような話を聞くと、いかに自分が今まで安全な国で不自由することなく生きてきたかということ改めて実感すると共に世界に広がる格差を感じました。現在、広く知られているようにドイツは毎年大勢の移民難民を受け入れています。町を歩いていてもドイツ人だけではなく本当に沢山の外国人を見かけ、多人種が共存していることを肌で実感しました。

留学期間も後半になると、少しですが自分の語学力の上達を自覚できるほどになり、友達も増え、前半に比べより充実した生活を送ることができたと思います。当初から所属していたオーケストラだけでなく、学校のブラスバンドや地域のスポーツクラブ、乗馬のレッスンや学校の演劇のメイクアップ、ホストシスターと一緒にブレーメンでの路上ライブまでも経験することができました。こうした出来事を通じ多種多様な人々と関わりを持ったことで、今まで近視眼的に物事を考えてきた私の考え方は大きく変わりました。

この留学では自分の意思を強く持ち相手に伝えること、また、相手の意見を聞き、「違い」を認めることの重要性を再認識しました。思ったことは素直に相手に伝えること、また、相手と意見が違う場合でもそれを否定や同一化せず「違い」として認めること、これは日本人には浸透していない考え方でとても感銘を受けました。世界には 70 億人も人がいて「十人十色」という言葉があるように 70 億人いれば 70 億通りの考え方が存在しても不思議ではありません。意見をまとめることも必要ですが、「違い」を尊重し、共存させることが大切だと感じました。

私のドイツ留学は私一人の力では絶対にやり遂げることのできなかったものであり、周りの人々だけでなく遠く離れた協力者のお陰で成し遂げることができました。そういう意味で、沢山の人の支えの温かみを感じられる 10 ヶ月間であり、感謝でいっぱいです。



## 2 履修状況、課外活動等

### (1) 履修科目

- ・ (前期) ドイツ語、数学、英語、歴史、地理、生物、音楽、体育、宗教
- ・ (後期) 外国人向けドイツ語コース (毎日 4 時間ドイツ語コースを履修)  
数学、英語、ドイツ語、体育、生物

### (2) 課外活動および受賞歴等

ブレーメン青年オーケストラ、プラスバンドクラブ、成人向け地域スポーツクラブ、乗馬レッスン、英語演劇クラブサポーター

## 3 今後の活動予定

私はドイツ留学で特に関わりが深かった移民難民の人々の影響を受けました。

今後は彼らのため、世界平和のために働きかけたいと思っています。そのため更に視野を広げ、世界で起きる様々な問題に興味を持ち、目を向けていきたいです。

## 4 記録写真



移民難民ドイツ語コースの友人と先生方



学校のプラスバンドクラブの仲間たち



ブレーメンの野外ステージで  
オーボエを演奏



乗馬のレッスンにも  
チャレンジしました



帰国前日のお別れパーティー